

第2学年 国語科学習指導案		授業者	
		授業学級	
授業テーマ	「〇〇の原因を探る」～筆者の述べ方で伝える、ミニフィールドワーク～		

1. 本時の目標

- 身近なことがらについて、筆者の述べ方を用いて発表し合うことを通じて、事実をわかりやすく伝える表現の工夫について知る。
- 調査研究をわかりやすく伝える上での、表現の仕方（段落構成・語彙）について考える。

2. 本時の位置づけ

第2学年国語科では、「語彙を豊かにすること」を中心に授業づくりを行っている。文学作品を語るためには、例えば「人物の関係性」という言葉が作品世界を深く知る手がかりとなる。短歌で言えば「余韻」という言葉が、行間を想像することにつながる。このように語彙の獲得が、思考そのものも導くと考える。本単元で身につけさせたい語彙は、研究をわかりやすく伝える言葉である。

説明文「クマゼミ増加の原因を探る」（光村図書）は、大阪市でのクマゼミの増加について、6つの段落から調査・検証の内容を伝えている。

①研究のきっかけ ②[前提] ③[仮説1] ④[仮説2] ⑤[仮説3] ⑥(まとめ) 例えば「①研究のきっかけ」の段落では「大阪市内では、なぜクマゼミの占める割合が、これほど高くなったのだろうか」と問題提起をする上で「…では、なぜ…これほど～たのだろうか」という表現を用いている。「…」 「～」に、別の調査研究の言葉を入れたとしても、問題提起をする語彙として用いることができる。

このように本単元では、事実をわかりやすく伝える語彙に着目させ、それを用いて、筆者と同じように調査したことがらについてグルー

プ毎に発表しあい、研究をわかりやすく伝える語彙について知り、用いてみることをねらいとしている。具体的には、段落の役割や、事実をわかりやすく伝える表現について考察した後、身近なことがらについて、同じ6段落の構成や、筆者の表現の工夫を用いて伝える学習である。

3. 本時の概要（10時間目／10時間扱い）

（1）調査研究をわかりやすく伝える語彙に浸る場として

「バドミントン部が人気の原因を探る」や「朝食でパン食が多い原因を探る」のように、小グループで身近なことがらについて調査し、筆者と同様の段落構成や述べ方を用いて発表する。具体的には仮説を立てた上で、アンケートによる調査（ミニフィールドワーク）を行った。

そしてその発表を互いに聞きあうなかで、繰り返し登場する筆者の語彙に触れ、事実をわかりやすく伝える語彙について考えさせた。

（2）情報活用能力との関連

-1 情報活用能力をどうとらえるか（「必要な情報を整理する力」）

身近なテーマについて問題提起し、仮説を立て、調査・検証して発表する学びの上で重要であるのは、必要な情報を整理する力である。筆者の文脈で発表することも加え、よりこの力を問う。

-2 体系表に照らしてみると

B 思考力、判断力、表現力等（情報の収集・整理・分析・表現する力）

4. 本時の展開

主な学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点
<p>〈1. 導入〉前時の学習の振り返り</p> <p>T：前回の身近なものと原因を探る発表のなかで、どのような段落のはたらきや表現の仕方が印象的だったか。</p> <p>S 1：特に仮説が具体的に整理されているとわかりやすい。</p> <p>S 2：問題提起と「つまり」でおおよその内容がわかる。</p> <p style="text-align: right;">(5分)</p>	<p>○筆者の段落構成や、述べ方の工夫を用いて、身近なものごとの原因を発表しあう学習であったことを思い出させる。(今日は発表の後半である；意欲づけ・方向づけ)</p>
<p>〈2. 展開〉</p> <p>(1)「〇〇の原因を探る」発表会の練習をする。(4人1グループ)</p> <p>(前回発表を終えたグループは、自身の発表を振り返り、構成や用いた表現について振り返りグループ内で感想を述べる。)</p> <p style="text-align: right;">(5分)</p>	<p>○問題提起をはじめ、6段落の構成や、用いた筆者の表現の仕方が正確に伝わるように意識させる。</p> <p>○6段落の構成のなかで、事実をわかりやすく伝える上で、どの段落のどの表現を工夫したのかについて事前に説明させる。</p>
<p>(2) 続「〇〇の原因を探る」発表会</p> <p>T：事実をわかりやすく伝える上で、工夫していた段落のはたらきや、表現の工夫を見つけよう。</p> <p>(6つの段落を4人で分担し発表する)</p> <p>①研究のきっかけ(問題提起はどのように)</p> <p>②[前提](調査の事実をどのように)</p> <p>③[仮説1](どこに注目し、どのように検証したのか)</p> <p>④[仮説2](それぞれの仮説のつながりは?)</p> <p>⑤[仮説3]</p> <p>⑥まとめ(検証から見えたことは?)</p> <p style="text-align: right;">(25分)</p>	<p>○発表を聞いて、事実をわかりやすく伝える上で工夫していた段落のはたらきや、表現の工夫についてメモさせる。</p> <p>○発表を聞いての感想に加え、工夫していた段落のはたらきや表現の工夫について、代表者にコメントさせる。(各班から1人)</p>
<p>〈3. まとめ〉ここまでの学習を振り返り、ノートに書く。</p> <p>S 1：「研究のきっかけ」重要なはたらきだと感じた。聞き手に興味がないことがらでも、共通点を挙げ、できるだけ聞き手に寄り添う姿勢が大切である。</p> <p>S 2：「着目」という表現や、「つまり」という書き出しが何度も出てきた。筆者の着眼点や、意図を立ち止まり納得する上でも重要である。</p> <p>S 3：「まず」「しかし」「その結果」といったように、接続語の順序で構成がほぼ決まる。どのように調査を伝えるのか、論の展開を整理する上でも役立つ。</p> <p style="text-align: right;">(15分)</p>	<p>○事実を分かりやすく伝える上で、重要な段落のはたらきや、表現の仕方についてわかったことを言葉にさせる。(特に実際に調査行って、事実を伝える上で気づいたことや、調査や研究内容を発表する上で役立つ表現についてなど。)</p>

(参考文献)『大村はま国語教室 ことばの指導の実際』(筑摩書房 1984)